



北部地域において、自社の強みを生かし、積極的に将来の産業構造や顧客ニーズに備えて努力を続けている中小企業を紹介します。

ステンレスも扱う熱間型鍛造品製造会社として幅広い地域の顧客を獲得



代表取締役社長 尾崎 至弘 氏

当社は1965(昭和40)年の創業時より、熱間型鍛造品の製造を手がけてきました。高温に加熱した金属を、金型上で加工する熱間型鍛造は、金属の靱性が高まり、寸法精度が高く、量産や複雑な形状の加工を効率よく行えることが大きな特徴です。主力品目は、化学プラントや建機、半導体製造装置、高層ビルの防災設備などに使われる継手・バルブといった高圧配管用付属部品で、一部、NC旋盤による機械加工も自社で行っています。

強みはステンレスを扱っている点にあります。ステンレスは鉄よりも硬いことから、加工に用いる金型の耐久性が低く、また、材料費が高いため不良を出した際の損失も大きい。さらに、100~2,000個程度と小ロット多品種の受注が多いため、全国的に扱っている会社が少ないのが現状です。そのため、業界では“ステンレスの尾崎”として東京、山形など遠方のメーカー・工場からも受注しており、顧客数は約40社にのぼります。現在では、ステンレス鍛造



ステンレス鋼の熱間型鍛造部品を得意とし、製品重量50gから45kgまで対応。

品が、全生産量の約3分の1を占めるまでになりました。

機械加工の体制を整え、さらなる販路開拓を目指す

今後は、さらなる販路開拓に向けて、売上全体の約5%にとどまっている機械加工を積極的に展開したいという思いがあります。そのためには人材不足の解消と設備投資が不可欠です。2021(令和3)年は京都産業21・京都府の補助金「小規模企業等経営基盤強化支援事業」を活用し、材料を従来機より高速で切断できる全自動の丸鋸切断機を導入、切断工程における人員体制の効率化が実現しました。

京都産業21には補助金のみならず、『京都ビジネス交流フェア』や商談会など、多角的に支援をいただけてきました。人材確保が順調に進めば、ものづくりの基礎を学べる講座や中堅社員向けの研修といった京都産業21主催のセミナーに、社員をどんどん参加させたいと思っています。京都産業21の支援の中で最大のメリットだと感じているのは、京都府北部地域における各業界の動向をはじめ、経営判断に必要なさまざまな情報を得られることです。将来的には情報の共有や企業連携など、地域全体における、よりよい企業経営の共有・実践につなげることができればと考えています。

Company Data

- 代表取締役社長 / 尾崎 至弘
- 所在地 / 京都府京丹後市大宮町河辺1173
- 電話 / 0772-68-0330 ● 創業 / 1965(昭和40)年
- 事業内容 / 特殊鋼・ステンレス鋼の熱間型鍛造品製造(鍛造金型製作含む)、NC旋盤による高圧継手の機械加工